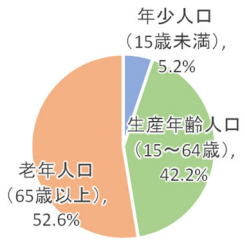
4－01

春　来（はるき）

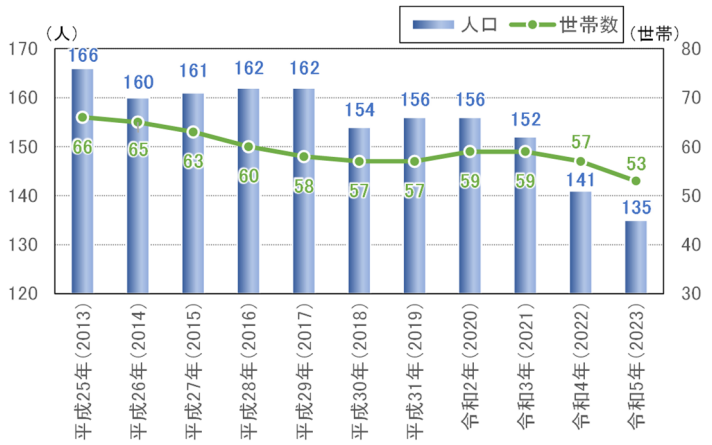
人口・世帯数等（令和５年４月）

人　　口	135 人
世 帯 数	53 世帯
高齢化率	52.6 %

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移（過去10年間）



区域の概要

立　　地　集落は、周囲を山に囲まれた標高400mに位置する農村である。国道９号（山陰道）が集落の中を東西に走っていた。北西側の湯谷の集落も当地に属する。

地名由来　『ひょうごの地名』（吉田茂樹著）によると、『延喜式（えんぎしき）』神名帳（しんめいちょう）の春木神社に由来する地名であるが、これは「墾（ハル）処（コ）」の当て字で、古代にこの山地を開墾してつくった居住地という意とされる。古くは春木と書いた。これは、椿原であった一帯を切り開いて村を作ったので、椿の字を２字にして春木としたとされる。冬季は雪深い地であり、春が来るのを待ちわびて、明治５年（1872）に木を来に変えたという。

歴 史 等　集落内には縄文時代早期の遺跡がある。集落の北部の標高562mの頂上には春来城ヶ山城跡があり、城域が広く、交通の要所を支配するために築かれた城である。古くは七美郡に属し、江戸時代に二方郡になった。近世の春木村は、もとは因幡国鳥取城主宮部（みやべ）氏領で、慶長（けいちょう）６年（1601）同国若桜（わかさ）藩領、慶長10年（1605）旗本宮城（はたもとみやぎ）氏知行（ちぎょう）、寛永（かんえい）20年（1643）幕府領、寛文（かんぶん）8年（1668）からは豊岡藩領となった。天保（てんぽう）5年（1834）の『但馬国郷帳（たじまのくにごうちょう）』（天保郷帳）の村高（むらだか）は108石余。山陰道の宿場として栄えて春木千軒とも言われ、旅人が馬をつないだという馬場中などの地名が残る。

明治22年（1889）温泉村の大字となり、昭和２年（1927）からは温泉町の大字となる。明治24年（1891）の戸数92、人口は男236・女231。昭和50年（1975）に春来トンネルが開通した。

これまで把握している文化財

文化財の件数　52 件　**（うち指定等文化財**　2 件**）**

大分類	中分類	小分類	把握件数			指定等
有形文化財	建造物	建築物	0	3	19	0
		石造物	3			0
		工作物・その他の構造物	0			0
	美術工芸品	彫刻	10	16		0
		絵画	0			0
		工芸品	5			0
		書跡・典籍	1			1
		古文書・歴史資料・考古資料	0			0
無形文化財		音楽	2	3		0
		演劇	0			0
		工芸技術	0			0
		その他の無形文化財	1			0
民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	6	6	16	0
		祭具	0			0
		民具	0			0
		その他の有形の民俗文化財	0			0
	無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	1	10		0
		民俗技術	0			0
		食文化	1			0
		民間説話・俗信	8			0
		その他の無形の民俗文化財	0			0
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	2	6	12	0
		古墳・その他の墓	0			0
		城館跡・寺社跡	1			0
		街道・古道等	3			0
		戦争遺跡	0			0
		その他の遺跡	0			0
	名勝地	山岳・高原・丘陵	1	1		0
		海岸・海浜・島嶼	0			0
		河川・滝・渓谷・湖沼	0			0
		公園・庭園	0			0
		その他の名勝地	0			0
	動物・植物・地質鉱物	動物	0	5		0
		植物	3			1
		地質鉱物	2			0
文化的景観		生活・生業・風土により形成された景観地	1			0
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等	1			0

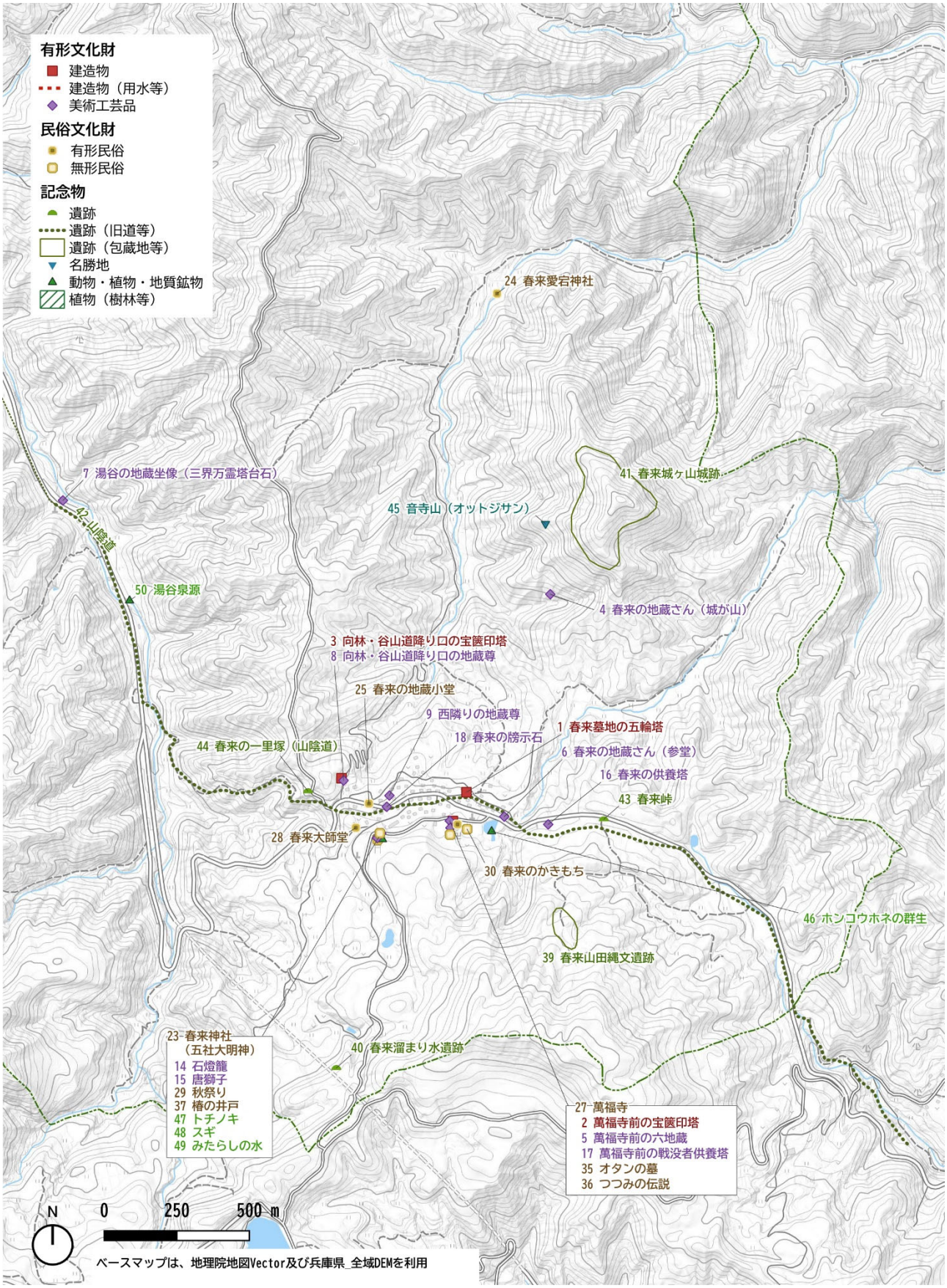
春来神社

萬福寺

ホンコウホネの群生

※人口・世帯数は住民基本台帳（令和５年４月現在）による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

4－01 春来

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
石造物	1	春来墓地の五輪塔	墓地ある破損した五輪塔。
	2	萬福寺前の宝篋印塔	95×40cm の石塔（宝篋印塔）。中世のもの。万福寺前に位置する。
	3	向林・谷山道降り口の宝篋印塔	地蔵尊の右隣に建つ高さ 1mほどの宝篋印塔。風化して一部が脱落している。室町時代後半のものと推定される。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	4	春来の地蔵さん（城が山）	80×50cm の石像。城が山の中腹（登山道の傾斜面広場）にあり、頭部は修復してある。台座は角形で城主の内室の法名が刻まれ、裏面に仁和 3 年（887）3 月落城と彫られている。台座上に蓮弁をかたどった円形受座、その上に地蔵尊坐像が安置される。幾多の逸話を残すが、昇天像とともに子授け地蔵として愛称され、子授けを願う人たちから信仰されている。
	5	萬福寺前の六地蔵	50×25cm の石像 6 体。万福寺前に位置する。元通称「ふりあげがま」（二組・消火貯水槽）の路傍に祀ってあったが、道路改修のため昭和 48 年（1973）8 月に現在地に移転。建立年代は不明。
	6	春来の地蔵さん（参堂）	65×25cm の石像（地蔵像）。もとは村のはずれにあったが、所有者が昭和 35 年（1960）頃に道路改修のために現在地に移転したものである。3 体祀られているうちの中央のもので、文政（1818～1830）中期、田中家初代の主が子宝願望の祈願のため小豆島八十八ヶ所霊場に巡拝し、お授けを受けて遠路持ち帰り、通称「湯谷坂の上」の路傍に鎮座させて祀り、供養を続けた。総代の方が現在地に移転した。
	7	湯谷の地蔵坐像（三界万霊塔台石）	地蔵像高 32cm、蓮座高 9.5cm、台座 14×34×32cm。正面に「三界萬霊」、左に「願主 友七」、右に「万人講中」と刻まれている。建立年月日は不詳であるが、福井家の先祖（友七）が病気平癒祈願のため建立したものと伝わり、代々同家によって祀られている。
	8	向林・谷山道降り口の地蔵尊	石造り・石蓋の小さな祠の中に鎮座。地蔵尊は光背の石材に浮く彫刻の坐像で、幅 9 cm、座高 13cm。建立年代は不明であるが、右隣に立つ宝篋印塔とともに室町時代後半のものと推定される。かつて近くに愛宕明神があったため、その参道であったとも、昔の街道が通っていたともいわれる。
	9	西隣りの地蔵尊	建立年代は不明。祠はブロック積（元は石積み）・石蓋、地蔵尊は石台座の上に坐像で、座高 20cm。
	10	春来の昇天さん	15×5cm の金像（歓喜天像）。城が山の中腹（登山道の傾斜面広場）にあり、地蔵さんとともに安置されている。地蔵さんとともに子授けを願う人たちから信仰されている。
	11	春来の薬師さん	120×60cm の木像。薬師堂内に祀ってある。塗りがほとんど落ちている。
	12	春来のお大師さん	30×20cm の木像。村はずれの小高い丘の上にある大師堂内に祀ってある。損傷はみられない。大師堂は平成 6 年度の大雪で倒壊し、翌年再建されたもの。美方郡東部八十八ヶ所の第十四番札所として信仰されている。
	13	萬福寺の薬師如来像	萬福寺本堂に祀られている本尊。厨子は友繁禅弘法師が調達して安置したものと伝わる。その他、弘法大師、不動明王、釈迦如来、観世音菩薩が祀られている。
工芸品	14	春来五社大明神の石燈籠	参道の天然石の石燈籠。学校新築のため、2 回も移転したが稀にみる立派なもの。
	15	春来五社大明神の唐獅子	本殿前の唐獅子。明治 40 年（1907）、社杉木を売却して建立されたもの。
	16	春来の供養塔	字ガンタに位置する供養塔。自然石の石碑。
	17	萬福寺前の戦没者供養塔（1947 年建立）	昭和 22 年（1947）10 月建立。昭和 17 年（1942）10 月に青年団事業として忠霊塔の建設を計画し、翌年射添村味取より俵石を確保して運搬。座石は湯谷春来川で砕石、「かぐら」で引きあげて搬送して建立された。

分類	番号	名称	概要
工芸品	18	春来の牓示石	春来集落内の民家庭先に立つ。豊岡藩領を示す。
書跡・典籍	19	二方郡春来村暮方取直日掛手段并拝借上納方御調牒	「二方郡春来村暮方取直日掛手段并拝借上納方御調牒」は前年に借りた御下殻を、生活に困った人たちに、返納と備蓄のため、生活が苦しい家を除いた 79 軒を 3 段階に分けて月賦貯金を続けた、返済額、貯蓄額の記録。文久元年（1861）～明治 2 年（1869）までの 8 年間の記録である。 町指定文化財

■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
音楽	20	春来小唄	重山重次郎作詞、小谷与一作曲。 ※『春来村誌』（平成 11 年、春来区編集・発行）p310 参照
	21	春来峠（歌）	岡本夢村作詞、酒井喜久男作曲。 ※『春来村誌』（平成 11 年、春来区編集・発行）p311 参照
その他の無形文化財	22	春来そばづくり	春来では昔から各家でそばを打って食べていたが、少子高齢化が進む中で、地域活力を高めるために、椿山公園まつりを契機にそばの特産化に取り組んできた。「そば処春来てっぺん」を中心に、生産・加工・販売を一貫して行う六次産業化を進め、その取組は農林水産大臣賞も受賞した。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	23	春来神社 （五社大明神）	祭神は天照大神、伊弉諾命、伊弉冉命、大己貴命、少彦名命。天武天皇白鳳 6 年（678）4 月 2 日の創立と伝わる。延喜式の制小社に列し、天正 16 年（1588）6 月 19 日、宝物蔵より出荷し、宝物・古文書等が悉く烏有に帰した。江戸時代は五社大明神といい、明治初年（1868）に春来神社と改めた。明治 6 年（1873）3 月に村社となった。
	24	春来愛宕神社	近代社格は無格社
	25	春来の地蔵小堂	春来集落内の地蔵尊の小堂。
	26	春来山祇神社	近代社格は無格社
	27	萬福寺	山号は金龍山。真言宗の寺院で、本尊は薬師如来。創立は平安末期まで遡ることができるが、享保元年（1716）と明治 5 年（1872）の大火で古文書、過去帳などの重要書類が焼失し、享保元年以前はたどることができない。
	28	春来大師堂	本尊は弥勒菩薩仏、弘法大師。美方郡東部八十八箇所第十四番札所。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	29	春来神社秋祭り	10 月 5 日に春来神社で行われる。前日の宵宮では早朝 5 時から神事が行われ、祭礼の準備ができたことを神様に報告する。祭礼当日はお祓いをしてもらい、神様の使いとしての榊の練り歩きが行われる。
食文化	30	春来のかきもち	12 月から 2 月まで、「そば処春来てっぺん」でかきもち作りが行われる。地元産のもち米で作ったもちを縦 3.5㎝、横 7.5㎝、厚さ 4㎜ に切って 2 日間寝かせ、44 枚を藁で編み込みんで「もちのれん」にする。水分が抜けるまで約 1 ヵ月間屋内で乾燥させる。古くからの冬の保存食である。
民間説話・俗信	31	蓮	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p179 参照
	32	ままこの椎拾い	※『春来村誌』（平成 11 年、春来区編集・発行）p298 参照
	33	くわと二輪	※『春来村誌』（平成 11 年、春来区編集・発行）p300 参照
	34	そばの足が赤いわけ	※『春来村誌』（平成 11 年、春来区編集・発行）p301 参照

4－01 春来

分類	番号	名称	概要
民間説話・俗信	35	オタンの墓	※『春来村誌』（平成 11 年、春来区編集・発行）p297 参照
	36	つつみの伝説	※『春来村誌』（平成 11 年、春来区編集・発行）p299 参照
	37	椿の井戸	※『温泉町郷土読本』（昭和 42 年、温泉町教育研修所調査部編集）p215 参照
	38	だんご	※『春来村誌』（平成 11 年、春来区編集・発行）p300 参照 ※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p112 参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	39	春来山田縄文遺跡	縄文時代の散布地。畑を水田に造成する際に縄文土器と焼土が出土したという。平成 5 年度の試掘調査では舟形土坑を検出。平成 15 年（2003）の試掘調査では直径 5cm の縄文土器を検出。
	40	春来溜まり水遺跡	縄文時代の散布地及び集落跡。
城館跡・寺社跡	41	春来城ヶ山城跡	中世の城館跡。春来集落の北東約 1.2km、標高 562mの城ヶ山山上に所在する。小規模で削平の甘い曲輪群の存在から、築城起源は南北朝期と考えられるが、規模がやや大きく削平のしっかりした曲輪群も見られるため、ほぼ室町期～戦国初期の遺構と思われる。戦国末期の改修はなかったと考えられる。規模的には地侍クラスの城郭と思われるが、城域が広いことから交通の要地を支配する勢力の存在も考えられる。
街道・古道等	42	山陰道	古代山陰道のルートは、村岡から春来峠を越えて伊角・熊谷を通って井土に出て、その後、岸田川沿いを西へ向かい、蒲生峠を越えて因幡国に入るルートが有力と考えられており、ほぼ現在の国道 9 号に該当する。律令時代の官衙遺跡は井土に集中し、中でも古代山陰道の「面治駅」は竹田の面沼神社付近とされる。
	43	春来峠	山陰道の道筋にある峠で、旧村岡町和田から新温泉町をつなぐ。現在は国道 9 号の春来トンネルが通るが、旧国道は和田から春来峠を越えていた。峠は標高 380m、延長 13 kmの急坂であるが、ひときわ四季の風情に富み、「春来坂初秋の空見れば　七美はあられ　二方は雨」と歌われた。昔は峠を境に北は二方郡、南は七美郡と呼ばれ、人情、風俗、方言などの幾多の相違を残している。
	44	春来の一里塚	山陰道の一里塚。元禄の「但馬国絵図」では、春来村から先、おそらく山道を下る手前に一里塚が描かれている。

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
山岳・高原・丘陵	45	音寺山（オットジサン）	城が山中腹にある巨大な岩（約 80m）。江戸中期に春来の山や名所を唄った名山節にも歌われている。「春来名山　音寺山　音寺松に　お寺のさくら　次に元庄屋の五葉の松　サーサ　これも見事だ　ヨーショシ」

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	46	ホンコウホネの群生	コウホネとはスイレン科の多年草で、1m位の深さのある日当たりのよい泥地に生息する植物である。兵庫県のレッドデータブックでは、希少植物である C ランクに位置付けられている。県内でも群生の形跡はなく、但馬ではほとんど全滅している植物である。また 5 月～6 月には直径 6～8cm の大型の花が咲き、溜池を彩る。 町指定文化財

分類	番号	名称	概要
植物	47	春来五社大明神のトチノキ	春来五社大明神境内のトチノキ。環境省巨樹巨木林データベースによると、幹周 3.0m、樹高 20mのもの、幹周 3.7m、樹高 20mのものの 2 本。
	48	春来五社大明神のスギ	春来五社大明神境内のスギ。環境省巨樹巨木林データベースによると、幹周 3.15m、樹高 25mのもの、幹周 3.94m、樹高 28mのものの 2 本。
地質鉱物	49	みたらしの水	神社境内の栃の大木数本を取り囲むように椿の群生林があり、その根元からこんこんと冷たい水が湧き出た。村人たちは、これを「みたらしの水」と呼んで親しみ、正月には注連縄を張って若水を汲みに行き、夏には冷し物をしたり、清水を汲んできてのどを潤したりもした。湧水は溝川を流れて数条に分岐し、村中を流れ、村人の貴重な用水となっていた。
	50	湯谷泉源	地名のとおり、自然に 24 度の温泉が湧いている。

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・風土により形成された景観地	51	春来の棚田	春来集落と城が山の間の谷筋に農地が拓かれ、棚田が広がっている。春来では、かつて「新田・古田」という言葉があり、古田とは豊臣の時代までに開発された水田で、新田とは徳川の時代に入って開発された水田のこととされ、新田・古田によって水利権の優劣（特に水不足の時）が行われてていたという。現在はこの言葉は全く使われなくなっている。

■ 伝統的建造物群

分類	番号	名称	概要
宿場町・城下町・農漁村等	52	春来集落	『但馬ランドスケープ広域計画報告書』では主要な宿場町（駅）の一つとしてあげられている。

自治会の区域における歴史文化・文化財の記録作成等の取組

・『春来村誌』（平成 11 年 12 月 8 日、春来区編集・発行）